

# 関中だより

令和2年  
1月31日  
第32号  
【文責 花岡】

## 冬休みの道徳の課題より

**一年 違いを乗り越えて (多文化理解)**  
「私たちが他国の人と接するとき、どんなことを大切にしていけばよいだろう」

○住んでいる国がちがうと、食のことや礼儀もちがっておもしろいなど思いました。外国の人はあまり、話したことがないけれど、まずは笑顔や礼儀を大切にして、簡単な言葉から話してみたいなど思いました。私たちが、知らない国と互いに文化について、知識を交換するのもすごく勉強になるし、おもしろそうだなと思いました。

○自分の国の文化だけ押し通さず、お互いの文化を認め、尊重しあって理解することが、一番かなと思います。僕も、作中の「私」と同じように、僕らとごく日常的なことから文化が違ったら、変だなと思ってしまいます。でも、よく考えてみると、それは、相手も同じ。同じ状況の下で、そのことを思って、相手を気遣うのが、かなり難しいけど、国際交流の中で、最も大切なことだと、この文を読んで感じました。

## 保護者より



○まだ子どもたちが小さかった頃「台湾」の学生さん3人がホームステイに来たことを思い出しました。日本食を食べてほしいと思って毎日一生懸命作りましたが、後日送ってもらった感想に「毎日日本食でいやでした」と書いてありました。逆にデザートや果物をバイナップルやマンゴーなど南国のフルーツを出すのと、これも感想に「日本のりんごが食べたかった」と書いてありました。おもてなしって難しいなと思いました。

○十代の頃、ブラジルやフィリピンの方と交流する機会があり、この話のようにお互いに片言でしたが「心から接する」ということを大事にしました。自分の国や文化など、色々な話を聞き、世界が広がり、大変人生の勉強になりました。会話できることももちろん大事ですが、最後は、うまく話をするという事ではなく、お互いに「人を思いやる心」「つながろうと努力する事」「心から伝えたい」ということが大切だと思います。

**二年 ライバル (真の友情)**  
「真の友情とはどのようなものだろう」

○お互いを認めあえる、自分の素直な気持ちを言えること。  
○お互いに理解し合い、本当の気持ちで接し合ったり、助け合ったりできることだと思った。  
○表面だけで合わせたりのではなく、本気でケンカしても、後でちゃんと仲直りできるような、お互いの事を思い合える関係。  
○自分のことを理解し、自分も相手のことを理解し、お互いを元気にしてもらえる存在。



## 保護者より

○調子が良い時は、誰と過ごしても、楽しいと思います。「イザ」と言うときに、相手に対して何ができるか？何を考えてあげられるか？そこで、真の友情がわかると思います。どんなに口でいい事を言っても、行動が伴っていかねば、わかりませんし、大切な友達のためだからこそ、行動にうつせると思います。そして、そんな友達がいることは、すごく幸せな事だと思えます。

○人とぶつかることってとても大切で、ぶつかった後の対応が一番大切で、どんなにぶつかったても向き合える関係でいられる、というところでしょうか。相手が逃げても自分は逃げない、ちゃんと向き合える、そういう人になってもいいと思います。そういう相手を一生かけて見つけてほしいです。

○相手を尊重する気持ちを持ち、相手にプラスになるような働きかけをしようとする友達関係のこと。全肯定ではなく、否定が相手にプラスになる場合も難しいか状況の時は相談でき、一緒に解決しようとする関係だと思えます。

**三年 塩むすび (感謝の心に応える)**  
「この文を読んで感じたことは」

○「塩むすび」を読んで、今までやってもらっていた側でも、自分がやるとなると大変なことでも、とてもたくさんあるのだと感じた。自分が知らないところでも、係の人がやってくれていることもたくさんあると思うから、感謝することが大切だと思った。何をやるにしても、やっていかなければいけないこともたくさんあると思うから、色々なことに挑戦していきたいと思った。

○どんな時でも、他人のことを思いやって、他人のために何かをすることが、自分も助かる一番の方法だと思った。そして「私」は、そうすることで、温かいご飯が食べられるあたりまえなこと感謝することができたのかなと思った。

## 保護者より

○子どもと一緒に読んで、本当にいい話だと思いました。自分で経験してみなければわからないことは世の中にたくさんある。緑やタイミングで、自分の知らない世界を知ったり、経験できた事、それは自分にとっての大切な宝物になり、また一つ成長できると思う。常に感謝の気持ちを忘れずにいてほしい。私もそうありたいと思います。



○避難所生活という特殊な環境にあって、普通なら気付けないことを気付かされたり、当たり前の事に感動したりする。それはつらい事であったり、望まない不自由であったとしても、それを通して見えなかったものが見え、感動したり成長したりできる。「塩むすび」という、ごくありふれたものが避難所生活を支える。握った人の温かさが「塩むすび」を通して、食べる人に届いたようだ。

下のQRコードを読み込むと学校のホームページに行けます

